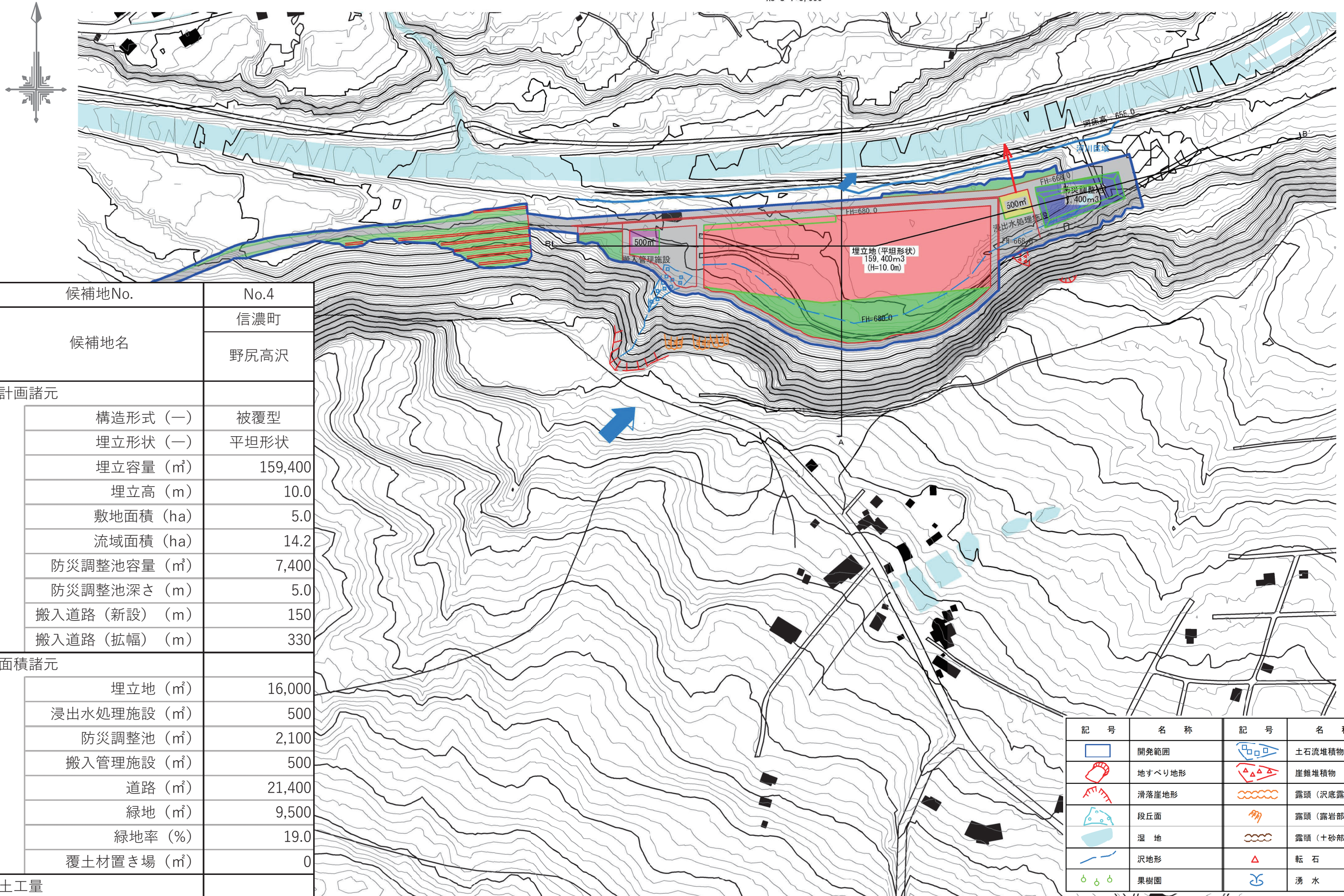


施設構想図(信濃町野尻高沢)

A1 S=1:1,500
A3 S=1:3,000



| | |
|---------------|---------|
| 候補地No. | No.4 |
| 候補地名 | 信濃町 |
| | 野尻高沢 |
| 計画諸元 | |
| 構造形式 (一) | 被覆型 |
| 埋立形状 (一) | 平坦形状 |
| 埋立容量 (m³) | 159,400 |
| 埋立高 (m) | 10.0 |
| 敷地面積 (ha) | 5.0 |
| 流域面積 (ha) | 14.2 |
| 防災調整池容量 (m³) | 7,400 |
| 防災調整池深さ (m) | 5.0 |
| 搬入道路 (新設) (m) | 150 |
| 搬入道路 (拡幅) (m) | 330 |
| 面積諸元 | |
| 埋立地 (m²) | 16,000 |
| 浸出水処理施設 (m²) | 500 |
| 防災調整池 (m²) | 2,100 |
| 搬入管理施設 (m²) | 500 |
| 道路 (m²) | 21,400 |
| 緑地 (m²) | 9,500 |
| 緑地率 (%) | 19.0 |
| 覆土材置き場 (m²) | 0 |
| 土工量 | |
| 切土 (m³) | 47,000 |
| 盛土 (m³) | 113,000 |
| 不足土* (m³) | 78,600 |

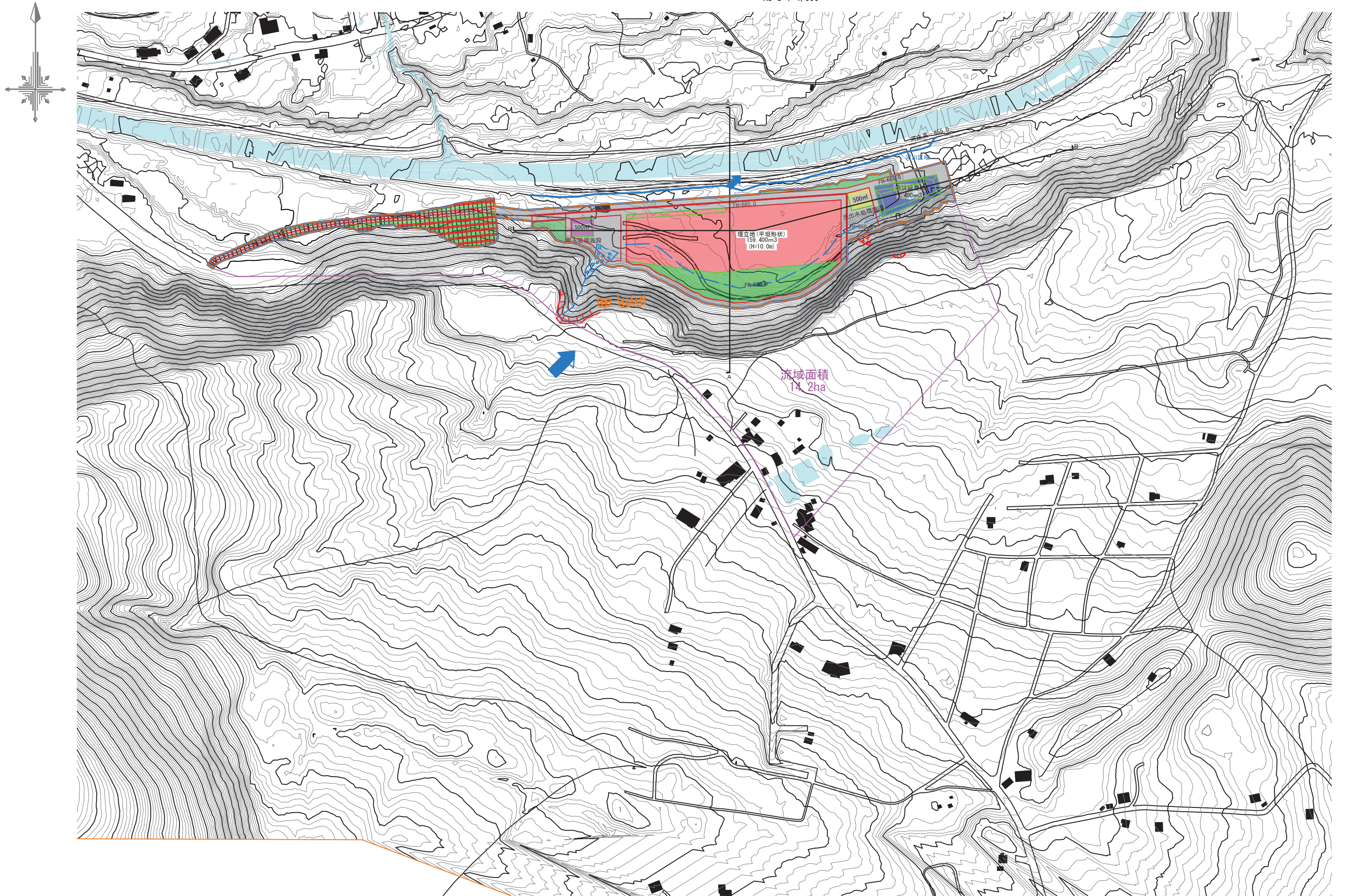
| 記号 | 名称 | 記号 | 名称 |
|----|--------|----|------------|
| | 開発範囲 | | 土石流堆積物 |
| | 地すべり地形 | | 崖錐堆積物 |
| | 滑落崖地形 | | 露頭 (沢底露岩部) |
| | 段丘面 | | 露頭 (露岩部) |
| | 湿地 | | 露頭 (十砂部) |
| | 沢地形 | | 転石 |
| | 果樹園 | | 湧水 |

処理水の放流ルート (河川放流)
 想定地下水流動方向

* 土の締固め率0.9とする

流域図(信濃町野尻高沢)

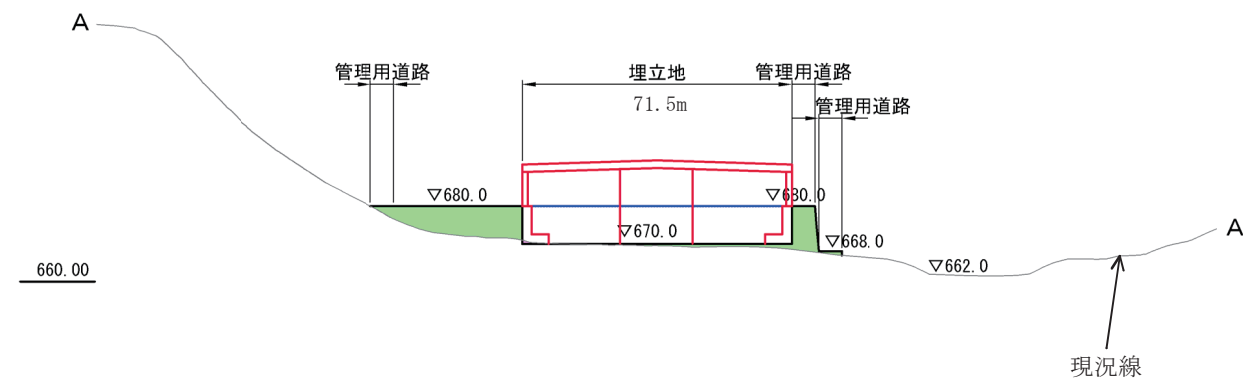
A1 S=1:2,000
A3 S=1:4,000



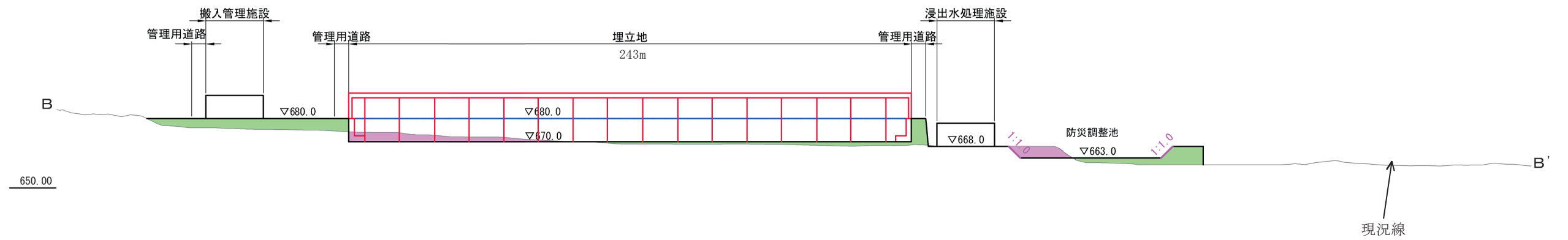
標準断面図(信濃町野尻高沢)

A1 S=1:1,000
A3 S=1:2,000

A—A' 断面図



B—B' 断面図



候補地の現況報告 (地形・地質・水文)

(信濃町野尻高沢)

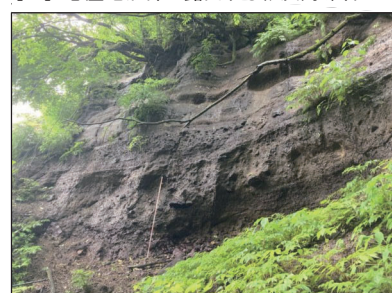
A1 S=1:1,500
A3 S=1:3,000



[P1] 斜面脚部に認められる滞水地、上方斜面上に崩壊地あり



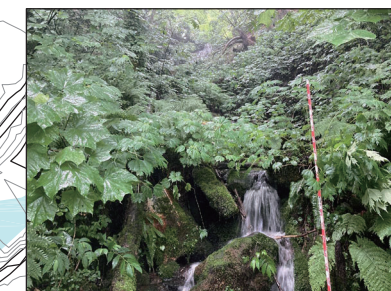
[P2] 急崖地形部に露出する凝灰角礫岩



[P3] 急崖地形部の露岩、凝灰角礫岩、火山礫凝灰岩、凝灰質砂岩が層状に概ね水平分布



[P4] 急崖地形部の露岩、火山礫凝灰岩、凝灰岩、凝灰質砂岩が層状に概ね水平分布



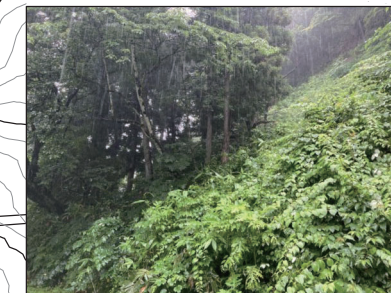
[P5] 崩壊地形部の沢、φ0.5mの安山岩礫が重なり合って堆積



[P6] 崩壊地形部の沢出口付近、φ0.5mの安山岩礫が重なり合って堆積、土石流堆積物



[P7] 急崖斜面の脚部、崖錐堆積物からの土砂流出あり



[P8] 急崖斜面、頭部付近の崩壊が認められる



[P9] 現河川の段丘平坦面

埋設物範囲
約1.5ha

| 記号 | 名称 | 記号 | 名称 |
|----|--------|----|------------|
| | 開発範囲 | | 土石流堆積物 |
| | 地すべり地形 | | 崖錐堆積物 |
| | 滑落崖地形 | | 露頭 (沢底露岩部) |
| | 段丘面 | | 露頭 (露岩部) |
| | 湿地 | | 露頭 (土砂部) |
| | 沢地形 | | 転石 |
| | 果樹園 | | 湧水 |

| 地区 | 評価項目 | 現地概要 | 現地写真 |
|-----|-------|--|-------------------|
| 信濃町 | 地形 | ・対象地は関川流域の氾濫原内で、南西側の斜面は関川の攻撃斜面となっており、流水を伴う大規模な崩壊地形も確認される ・対象地の急崖南斜面には、露岩壁面や表層崩壊地が確認される | P1、P8、P9 |
| | 地質 | ・対象地南西側の斜面には流水を伴う崩壊地形が確認され、土石流堆積物が認められる ・対象地の急崖南斜面脚部には、ゆるい崖錐堆積物が分布する ・急崖斜面上部には凝灰角礫岩、火山礫凝灰岩などが認められる ・計画施設の基盤は関川流域の氾濫原堆積物内となる | P2、P3、P4、P5、P6、P7 |
| | (地下水) | ・対象地南西側の崩壊斜面には上方にも谷地形が連続するため、常時流水があるものと想定される(取水施設等はなし) ・対象地の急崖南斜面の上方は泥流堆積物に覆われた緩斜面が連続するため、地下水の涵養は多いものと推測される | P1 |
| | 留意事項 | ・関川流域の氾濫原内となるため、洪水や浸水の可能性を考慮する必要がある ・南側斜面の崩壊地からは土石流が懸念され、露岩部からは落石や岩盤崩壊の危険性が想定される | |

: 写真位置・番号、撮影方向

: 想定地下水流動方向

地形・地質 現地踏査結果図 (信濃町野尻高沢)

候補地の現況報告（動植物） 野尻高沢



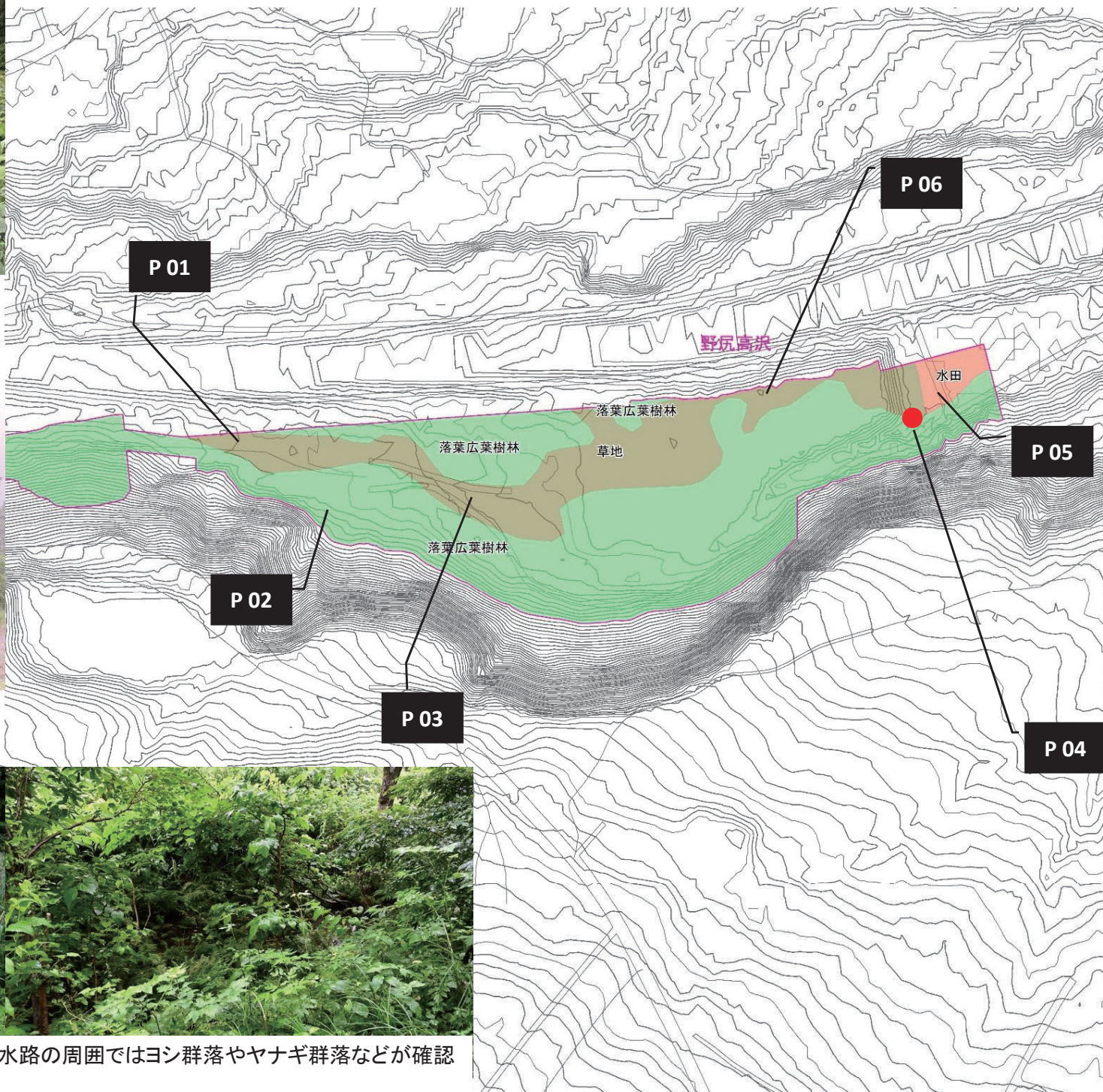
[P 01] 川沿いの平坦面は、主にススキやクズ等からなる草地となっていた。



[P 02] 河岸段丘の斜面部は落葉広葉樹林となっていた。



[P 03] 河岸段丘の斜面脚部に沿って水路があり、水路の周囲ではヨシ群落やヤナギ群落などが確認された。



[P 06] 河道沿いではヤナギ類の高木群落が確認された。



[P 05] 耕作跡地となっており、シロツメクサやイネ科類等の草本類が生育していた。



[P 04] 水路の下流端付近は、流れが緩やかとなっており、ミクリ(植物/環境省:準絶滅危惧種、長野県:絶滅危惧Ⅱ類)の生育が確認された(約25株)。また、両生類(カジカガエルの可能性あり)の生息が確認された。

| 評価項目 | | 現地概要 |
|------------|--|--|
| 希少動植物の確認状況 | 動物 | なし |
| | 植物 | ミクリ(環境省RL:準絶滅危惧種、長野県RDB:絶滅危惧Ⅱ類) |
| | 生息・生育環境 | ・東側の水路及びその周囲の湿地は、希少な湿生植物や両生類の生息・生育地となっている。 |
| 自然の改変度 | <ul style="list-style-type: none"> ・河岸段丘の斜面部は、落葉広葉樹林(植生自然度7)となっている。 ・平坦面は、主にススキやクズ等からなる草地となっている。 ・水路沿いは湿地となっており、ヨシ群落やヤナギ林となっている。 ・平坦部の東端は、耕作地となっている。 | |
| 留意点 | ・東側の水路沿いの湿地には、希少な植物が生育しているとともに、両生類の生息環境となっている可能性があることから、改変する際は、植物の移植や代替湿地の創出等の環境保全措置が必要となると考えられる。 | |

50

航空写真（信濃町野尻高沢）



撮影日
上：2017年4月
下：2004年

凡例
— 敷地範囲

0 150 300 m